

## いちごいちえ (151 会)

## の仲間たち



昭和43年専修学校

機械科 151 回卒業

酒井史生

昭和41年4月 高度成長期の日本は団塊の世代が高校を卒業する年とも重なり当時の専修学校機械科は250余名の新入生で教室は立ち見の授業でもあり、働きながら学ぶのは容易ではなく、無事、卒業できたのは58名であった。それから40年。昭和が平成となり、出席者の近況

川崎正美 定年をすぎましたがそのまま cad の仕事で活躍中  
 小川 勉 キヤノン、リコーの設計の仕事を受注しています  
 山川義則 富士通で嘱託にてセミナーの講師をしています  
 及川 親 東大の研究室に勤務中(63歳の定年まであと少し)  
 久能守司 トピーの嘱託で週3日勤務中  
 相沢良夫 リコーを定年で退職。これから温暖な土地で暮らそうと考えています  
 渡辺征三 オリパスを退職。地域ボランティアをしたり趣味で絵をかいたりしています  
 田中 勝 東北ヨーケンの専務取締役で勤務継続しています  
 後藤忠雄 定年後、中央美術協会会友として絵画の世界で活躍中  
 宮守 実 週3回友人の会社にアルバイトにいらっています  
 樋口幸英 庭の植木と今年16歳の愛犬の世話をしています

この仲間のなかから、頑張る先輩として後藤忠夫さんを紹介したい。

後藤さんは昭和34年に富士精密(プリンス自動車工業に社名変更)に入社、その後日産自動車と合併。職場では一時自動車部門も経験しましたが、その後ロケットの研究開発部門で、検査、品質管理業務に配属され、一貫して信頼性確保に係ってきました。日産を定年退職後、2000年3月から中央美術専門学校に2年間在学。卒業後の2003年より毎年中央美

術協会に出品、現在会友として、工業の世界から絵画の世界に進出して活躍中。今年も6月、東京都美術館の中美展に出品され今後の活躍が期待されています。今年、陶芸で有名な、滋賀県の信楽焼きの窯元に足を運び、直接取材をして描き上げた力強い作品は、「信楽の登り窯」で今年同窓会OB作品展にも展示して戴きました。これからは少し高い山に登り雄大な自然を描くのが夢との事。ご健闘をお祈りします。



平成18年10月14日のいちごいちえ



信楽の登り釜